

岩手県の農林水産業の概要

特徴・取組

岩手県は本州の北東部に位置し、東西約122km、南北約189kmと南北に長い楕円の形をしており、その面積は、約1.5万km²と国土面積の4%を占め、北海道に次ぐ広さとなっている。

奥羽山脈の山沿い地方は冬に雪の多い日本海側の気候、北上高地は高原性・盆地性の気候、北上川沿いの平野部は全般的に冬は寒さが厳しく夏は暑い内陸性の気候、沿岸部は海洋性の気候となっており、地域の気象条件や特性を生かした多彩な農林水産物の生産が行われている。

岩手県の産業別総生産（令和3年度）は、第1次産業が1,372億円(2.9%)、第2次産業が12,403億円(26.4%)、第3次産業が32,645億円(69.4%)となっている。

また、農業産出額（令和5年）は総額2,975億円で、東北2位、全国9位となっており、うち畜産が1,975億円と66.4%を占めている。

岩手県の農業は、米、畜産に加え、全国一のりんどうや夏秋ほうれん草等の園芸産地が形成されており、米や、園芸、畜産を柱とした収益性の高い農業への再編が図られている。

林業は、豊富な森林資源を将来にわたり循環利用するとともに、森林の公益的機能が発揮されるよう適切な森林整備、地域を集約して経営を行う担い手の育成、木材生産の低コスト化、県産材利用の促進等に取り組んでいる。

水産業は、親潮と黒潮がぶつかる世界有数の漁場のほか、複雑に入り込んだリアス式海岸を生かしたアワビやワカメ、サケ等の「つくり育てる漁業」が盛んである。

GI登録は全国2位の9件で、「前沢牛」、「岩手野田村荒海ホタテ」、「岩手木炭」、「二子さといも」、「浄法寺漆」、「甲子柿」、「広田湾産イシカゲ貝」、「西わらび」、「川井赤しそ」が登録されている。

岩手県では、食料の安定供給や環境にやさしい農業生産に関心が高まる中、産地の核となる担い手を中心として、中小・家族経営など多くの農家とともに、化学肥料・農薬の使用量の低減やスマート農業技術の導入を推進するなど、持続可能で生産性の高い農業に取り組んでいる。

また、林業では、県産木材の供給体制の更なる強化や、森林資源の循環利用の推進、水産業では、海洋環境の変化に対応したサケ等主要魚種の資源回復、マイワシやブリ等増加している資源の有効利用や、サケ・マス類の海面養殖の推進に取り組んでいる。

主な農林水産物

りんどう(切り花類)

昭和33年に野生株を収集して水田で栽培したのが始まり。昭和42年からオリジナル品種の開発を開始。
(出荷量全国1位)



りんご

冷涼で気温の日較差が大きい恵まれた気象条件と、わい化栽培により早期多収で高品質。ふじ、ジョナゴールド、はるかなど品種も多彩。
(収穫量全国3位)



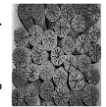
ブロイラー

国内を代表する産地で、岩手独自の地鶏を含む多数の銘柄鶏があり、オリジナルの餌等により肉質等にこだわりを持った生産が行われている。
(飼養羽数全国3位)



木炭(黒炭)

原木となるナラが豊富にあり、県北地域を中心に生産され、全国の4割を占める日本一の産地。
(生産量全国1位)



あわび

コンブ等が豊富に生い茂る漁場で育ったあわびは、肉厚で歯ごたえが良いのが特徴。干して加工した乾鮑は高級中華食材に使用されている。
(漁獲量全国1位)



ホップ

栽培面積は全国の約5割を占める。契約栽培による安定した収益が確保されている。
(生産量全国1位)



雑穀

近年、健康食ブームにより雑穀の様々な成分や機能性が見直され多様な活用が行われているほか、郷土食として今も地元で根付いている。花巻市や県北地方を中心に栽培。



肉用牛

黒毛和種は、県下に多数の銘柄牛を飼養。特に前沢牛の牛肉はGI登録されている。
また、希少な日本短角種は全国の4割を生産。
(飼養頭数全国6位)



生うるし

国内生産量の約8割を生産。「浄法寺漆」は、中尊寺金色堂、日光東照宮など世界遺産の保存修理にも用いられている。
(生産量全国1位)



わかめ類

肉厚で歯ごたえがあり、色が濃く熱に強いことが特徴で、全国でも有数な品質。
(収穫量全国2位)



岩手県内の各地域における農林水産物

盛岡地域

【農畜産物】米、小麦、そば、ピーマン、やまのいも、きゅうり、キャベツ、レタス、だいこん、はくさい、ほうれんそう、ブロッコリー、トマト、ズッキーニ、すいか、りんご、なし、ぶどう、やまぶどう、りんどう（切り花類）、アルストロメリア（切り花類）、スターチス（切り花類）、肉用牛、豚、生乳

【林産物】からまつ、広葉樹、生しいたけ、なめこ

【水産物】ます類（内水面）

県北地域

【農畜産物】雑穀、きゅうり、キャベツ、レタス、トマト、ほうれんそう、にんにく、りんどう（切り花類）りんご、おうとう、ホップ、やまぶどう、葉たばこ、肉用牛、豚、ブロイラー、生乳

【林産物】あかまつ、広葉樹、木炭、生しいたけ、乾しいたけ、生うるし

【水産物】するめいか、あわび類、うに類、こんぶ類（養殖）、ほたてがい（養殖）

県南地域

【農畜産物】米、そば、大豆、小麦、ピーマン、きゅうり、アスパラガス、えだまめ、トマト、さといも、りんご、ぶどう、なし、ホップ、小ぎく、りんどう（切り花類）、肉用牛、豚、生乳、ブロイラー

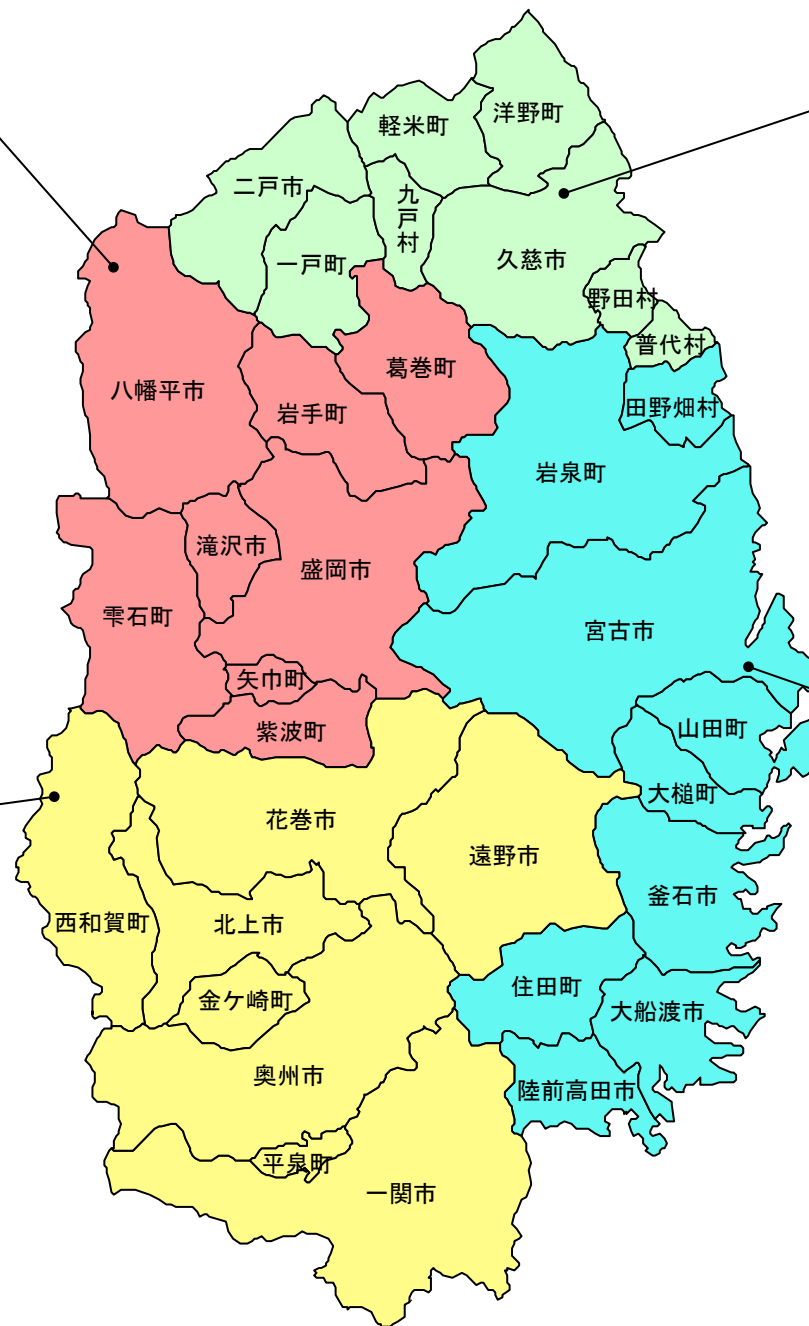
【林産物】すぎ、広葉樹、生しいたけ、水わさび

沿岸地域

【農畜産物】ピーマン、ブロッコリー、いちご、しそ、肉用牛、豚、ブロイラー、生乳

【林産物】広葉樹、生しいたけ、乾しいたけ、畑わさび、まつたけ

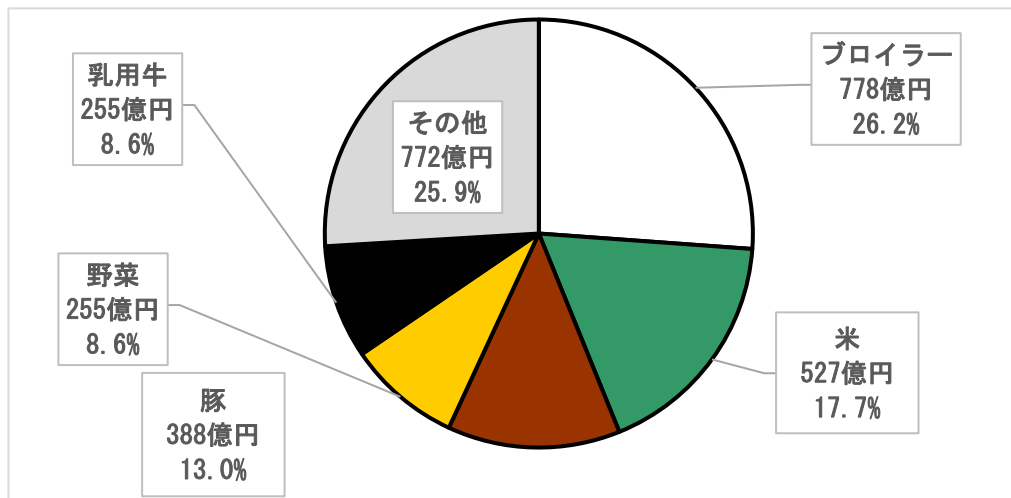
【水産物】かつお、さけ・ます類、さば類、さんま、たら類、おきあみ類、するめいか、あわび類、うに類、ほたてがい（養殖）、かき類（養殖）、わかめ類（養殖）、こんぶ類（養殖）



岩手県の農業（１）

- ・農業産出額は2,975億円で全国９位。うち米が527億円（17.7%）、野菜が255億円（8.6%）、畜産が1,975億円（66.4%）。
- ・農畜産物の生産状況は、りんどう、やまぶどう、ホップが全国１位、葉たばこが２位、りんご、ブロイラーが３位。

農業産出額の概略



農畜産物の生産状況

区 分		年次	岩 手 県	全 国	全国順位
ピーマン	収穫量	R5	7,720 t	144,000 t	5
りんご	収穫量	R5	31,600 t	604,000 t	3
りんどう	出荷量	R5	40,900 千本	69,000 千本	1
肉用牛	飼養頭数	R6	87,900 頭	2,672,000 頭	6
乳用牛	飼養頭数	R6	38,700 頭	1,313,000 頭	4
ブロイラー	飼養羽数	R6	23,604 千羽	144,859 千羽	3 *
生乳	生産量	R6	196,964 t	7,357,451 t	5
やまぶどう	収穫量	R4	120 t	205 t	1
葉たばこ	販売重量	R5	1,089 t	8,722 t	2
ホップ	生産量	R6	58 t	127 t	1

出典：「野菜生産出荷統計」、「果樹生産出荷統計」、「花き生産出荷統計」、「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」、「特産果樹生産動態等調査」、「葉たばこ販売実績」、「ホップに関する資料」

農業産出額のデータ

区 分	岩手県の農業産出額	全国の農業総産出額	全国順位
農業産出額	2,975 億円 (100.0)	94,952 億円 (100.0)	9
米	527 億円 (17.7)	15,193 億円 (16.0)	10
麦類	x 億円	678 億円	- *
雑穀	3 億円	77 億円	8
豆類	7 億円	572 億円	14
いも類	3 億円	2,301 億円	43
野菜	255 億円 (8.6)	23,243 億円 (24.5)	30
果実	126 億円 (4.2)	9,590 億円 (10.1)	19
花き	44 億円	3,522 億円	23
工芸農作物	25 億円	1,467 億円	12
その他作物	x 億円	585 億円	- *
畜産	1,975 億円 (66.4)	37,212 億円 (39.2)	4
肉用牛	249 億円	7,696 億円	8
乳用牛	255 億円	9,249 億円	5
生乳	245 億円	8,310 億円	4
豚	388 億円	7,194 億円	7
鶏	1,073 億円	12,033 億円	2
鶏卵	249 億円	7,413 億円	15
ブロイラー	778 億円	4,471 億円	3 *
その他畜産物	10 億円	1,041 億円	8
加工農産物	0 億円	513 億円	40

出典：「令和5年農業総産出額及び生産農業所得(全国)」、「令和5年農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)」
注：() は農業総産出額及び農業産出額を100%とした割合である。

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方
 ・令和7年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用
 ・表中に使用した記号は次のとおり
 「O」：単位に満たないもの(例:0.4t→0t)
 「-」：事実のないもの
 「…」：調査を欠くもの
 「x」：秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。
 「*」：秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順位

岩 手 県 の 農 業 (2)

- ・耕地面積は14万6,000haで全国5位。うち田が9万1,500ha、畑が5万4,500ha。
- ・農業経営体数は3万5,380経営体で全国7位。うち法人経営体が840経営体で8位。
- ・市町村認定及び都道府県認定経営体数は5,743経営体で全国14位。うち法人数が771法人で10位。
- ・農業生産関連事業は、農家民宿の年間販売（売上）金額が2億円で全国8位、経営体数は30経営体で9位。

耕地面積

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
耕地面積	146,000 ha	4,272,000 ha	5
田	91,500 ha	2,319,000 ha	8
畑	54,500 ha	1,952,000 ha	5
普通畑	24,900 ha	1,118,000 ha	12
樹園地	3,210 ha	248,600 ha	22
牧草地	26,300 ha	585,900 ha	2
参考) 総土地面積	15,275.05 km ²	377,975.68 km ²	2

出典：「令和6年耕地面積(7月15日現在)」、「令和7年全国都道府県市区町村別面積調(1月1日時点)」(国土交通省国土地理院)

荒廃農地面積

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
荒廃農地面積	3,580 ha	256,676 ha	26

出典：「令和5年度の荒廃農地面積(令和6年3月31日現在)」

農業経営体数、総農家数及び集落営農数

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
農業経営体数	35,380 経営体	1,075,705 経営体	7
法人経営体	840 経営体	30,707 経営体	8
総農家数	52,688 戸	1,747,079 戸	7
販売農家	33,861 戸	1,027,892 戸	7
参考) 世帯総数	492,436 世帯	55,830,154 世帯	32
集落営農数	597 集落営農	13,998 集落営農	7

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)、「令和6年集落営農実態調査結果(令和6年2月1日現在)」

担い手への農地の集積状況

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
担い手への集積面積	81,396 ha	2,593,345 ha	5
集積率	55.3 %	60.4 %	14

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和5年度版)」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
基幹的農業従事者数	44,458 人	1,363,038 人	9
男	25,255 人	822,144 人	10
女	19,203 人	540,894 人	8
65歳以上	32,784 人	948,621 人	6
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	73.7 %	69.6 %	-
国、市町村認定及び都道府県認定経営体数	5,743 経営体	216,784 経営体	14
法人数	771 法人	29,128 法人	10
参考) 人口総数	1,210,534 人	126,146,099 人	32

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和6年3月末現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

農業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
農産加工	総額 9,158 百万円 事業体数 890 事業体	999,786 百万円 27,760 事業体	29 7
農産物直売所	総額 18,972 百万円 事業体数 410 事業体	1,126,420 百万円 21,240 事業体	24 23
観光農園	総額 1,036 百万円 経営体数 30 経営体	37,281 百万円 5,050 経営体	13 37
農家民宿	総額 198 百万円 経営体数 30 経営体	5,352 百万円 1,140 経営体	8 * 9
農家レストラン	総額 613 百万円 事業体数 40 事業体	39,434 百万円 1,360 事業体	27 * 8

出典：「令和5年度6次産業化総合調査結果」

岩 手 県 の 林 業

- ・林業産出額は192.3億円で全国5位。うち木材生産が148.6億円、栽培きのこ類生産が37.6億円。
- ・林産物の生産状況は、素材生産量が全国3位、あかまつ・くろまつ、黒炭、生うるし、木酢液等が全国1位、広葉樹、生しいたけが2位。

林業産出額

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
林業産出額	192.3 億円	5,562.5 億円	5
木材生産	148.6 億円	3,257.0 億円	3
栽培きのこ類生産	37.6 億円	2,199.2 億円	17

出典：「令和5年林業産出額」

林産物の生産状況

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
素材生産量	1,235 千m ³	20,647 千m ³	3
針葉樹	1,026 千m ³	18,926 千m ³	4 *
あかまつ・くろまつ	200 千m ³	494 千m ³	1
からまつ	220 千m ³	1,837 千m ³	3 *
広葉樹	209 千m ³	1,721 千m ³	2 *
生しいたけ	生産量 4,292 t	63,374 t	2
黒炭	生産量 1,379 t	3,416 t	1 *
生うるし	生産量 1,344 kg	1,651 kg	1 *
木酢液等	生産量 684,702 l	1,711,055 l	1 *

出典：「令和5年木材統計」、「令和5年特用林産基礎資料」

林野面積

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
林野面積	1,152,364 ha	24,770,201 ha	2
国有林	364,916 ha	7,153,338 ha	5
民有林	787,448 ha	17,616,863 ha	2
人工林面積	484,203 ha	10,133,111 ha	2

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

製材工場数

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
製材工場数	106 工場	3,749 工場	12
製材用素材の入荷があった工場数	106 工場	3,722 工場	11
国産材のみ	79 工場	3,116 工場	17
国産材と輸入材	27 工場	511 工場	2

出典：「令和5年木材統計」

林業経営体数

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
林業経営体数	1,728 経営体	34,001 経営体	3
法人経営体	193 経営体	4,093 経営体	3

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

岩 手 県 の 漁 業

- ・ 漁業産出額のうち、海面漁業・養殖業産出額は420億円で全国13位。
- ・ 水産物の生産状況は、海面漁業のあわび類が全国1位、さけ類が3位、海面養殖業のこんぶ類、わかめ類が2位、内水面漁業のさけ類が4位。
- ・ 漁業生産関連事業は、水産加工の年間販売（売上）金額が32億円で全国15位、事業体数は30事業体で10位。

漁業産出額

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	420 億円	15,265 億円	13
海 面 漁 業	312 億円	9,534 億円	7
海 面 養 殖 業	108 億円	5,731 億円	17

出典：「令和5年漁業産出額」

漁業経営体数

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
海面漁業経営体数	2,896 経営体	65,662 経営体	4
内水面漁業経営体数	34 経営体	4,076 経営体	32

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁業就業者数

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
海面漁業就業者数	4,998 人	121,389 人	5
男	4,416 人	109,757 人	6
女	582 人	11,632 人	8

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁船隻数

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
漁船隻数	5,041 隻	109,283 隻	3
動力漁船	1,022 隻	58,906 隻	21

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区 分	岩 手 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	102,010 t	3,777,921 t	10 *
海面漁業漁獲量	73,166 t	2,926,411 t	11
さけ類	93 t	60,154 t	3 *
あわび類	135 t	678 t	1
海面養殖業収穫量	28,844 t	851,509 t	10 *
こんぶ類	4,509 t	25,741 t	2 *
わかめ類	13,410 t	49,588 t	2 *
内水面漁業・養殖業生産量	307 t	51,908 t	20 *
内水面漁業漁獲量	45 t	21,567 t	21 *
さけ類	43 t	8,034 t	4 *
内水面養殖業収穫量	262 t	30,341 t	17 *
にじます	207 t	4,734 t	7 *

出典：「令和5年漁業・養殖業生産統計」

漁業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分		岩 手 県	全 国	全国順位
水産加工	総額	3,168 百万円	179,159 百万円	15 *
	事業体数	30 事業体	1,220 事業体	10
水産物直売所	総額	125 百万円	34,988 百万円	31 *
	事業体数	10 事業体	810 事業体	20
漁家民宿	総額	52 百万円	5,389 百万円	21 *
	経営体数	10 経営体	540 経営体	13
漁家レストラン	総額	111 百万円	13,249 百万円	23 *
	事業体数	10 事業体	380 事業体	8

出典：「令和5年度6次産業化総合調査結果」

岩手県の農林水産業の話題等（１）

地域で守る宝物「川井赤しそ」～宮古市川井～

宮古市川井地区（旧川井村）の区界（くざかい）高原では、特産品の「川井赤しそ」が栽培されている。葉の表が緑色で裏が赤紫色であることから「片面紫蘇」と呼ばれ、赤紫蘇の色素と青紫蘇の香りを併せ持つ。収穫時期は6月末から8月末で、お茶の刈取り機を使い収穫している。

旧川井村では、昭和60年に「川井赤しそ」を転作田の奨励作物に指定し、栽培面積を拡大してきた。昭和61年には、第三セクターの社団法人川井村産業開発公社（現在は、株式会社川井産業振興公社）を設立し、生産者と栽培契約を結び、作業受託や刈取り機の貸し出しを行っている。収穫された紫蘇は全量買い取って、日本一の梅の産地である和歌山県内のJA等へ梅干し用として出荷している。このほか、紫蘇ドリンク等の加工品を製造し、公社の道の駅やオンラインショップで販売している。

宮古市では、苗などの購入費用を支援しており、生産者、公社及び市の三者が一体となって産地化に取り組んでいる。地域で守ってきた「川井赤しそ」は、令和7年1月30日に農林水産大臣から地理的表示（GI）に登録された。



区界高原のしそ畑



川井赤しそのGI登録を喜ぶ地元関係者の皆さん



加工品の紫蘇ドリンク

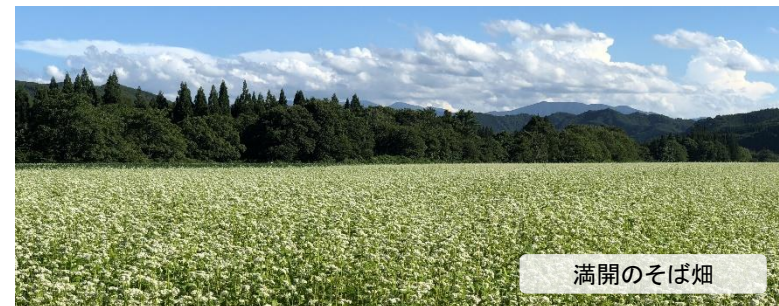
極寒の気候風土を生かした「寒ざらしそば」～西和賀町～

西和賀町は地域活性化のため、町内産農産物等を加工した魅力的な商品の開発を行い、全国に発信・販売している。

昼夜の寒暖差が大きいこの地域では、風味豊かなそばの栽培が盛んに行われ、そばの生産振興に努めている。10年ほど前からは、冬の名物で町を盛り上げようと（株）西和賀産業公社に委託して、日本有数の豪雪地帯という厳しい環境を生かした「寒ざらしそば」の製造を行っている。

公社では、大寒の時期に玄そばを伏流水に10日間ほど浸した後、寒風に10日間以上さらして乾燥させるなど、手間をかけて寒ざらしそばを製造している。また、麺のつながを良くするため、異なる粒度に製粉したそば粉を配合している。このようにして作ったそばは、雑味が取れ、風味や甘みが増し、モチモチの食感となる。

町では、町内外のそば店が寒ざらしそばの特別メニューを期間限定で提供する「寒ざらしそばまつり」を毎年3月頃に開催しており、県内外から多くの人を呼び込み、町や農業の活性化につながっている。



満開のそば畑



厳冬期に行われる
そばの寒ざらし作業



甘みと香り広がる寒ざらしそば

写真提供：(株)西和賀産業公社

岩手県の農林水産業の話題等（２）

地域おこし協力隊員が短角牛生産振興の一翼を担う～久慈市山形町～

久慈市山形町では、地域おこし協力隊による日本短角種「山形村短角牛」の生産振興が図られている。

山形村短角牛は旧南部藩時代の南部牛をルーツとし、地域で古くから飼育されてきた。しかし、近年は生産者の高齢化や牛肉需要の減少により、生産頭数の維持が難しくなっている。市ではこの状況を打開するため、20代前半の地域おこし協力隊員2名の力を借りて活性化を図っている。

協力隊員の小野沢りんさんは長野県伊那市出身で、岩手県立農業大学校で短角牛について学び、令和4年8月から活動している。地域の精肉店で技術を学び、自ら「短角考舎おのざわ」を開業し、SNSでのPRを通じて短角牛の販売拡大を目指している。

片岡凜太郎さんは新潟県小千谷市出身で、幼少期から短角牛に興味を持ち、岩手県立農業大学校で畜産を学んだのち、令和5年4月から協力隊員として活動している。JAの共同牛舎で飼養管理を行うなど、地域の労働力不足解消に貢献している。

二人は山形村短角牛の闘牛にも挑戦し、地域の一大イベントである闘牛大会を盛り上げている。活動を通じて消費者との交流を深めることで、山形村短角牛の生産を支え、地域経済の活性化に寄与している。



広い放牧地で過ごす山形村短角牛



（左から）地域おこし協力隊の
小野沢りんさんと片岡凜太郎さん



良質な赤身が多い
山形村短角牛の精肉
写真提供：（有）総合農舎山形村

休暇の充実で若手の人材確保・定着～八幡平市～

（株）岩手山麓ディリーサポートでは、休暇の充実で若手の人材確保・定着に取り組んでいる。同社は、八幡平市で牧草、デントコーンの生産とTMR（完全配合飼料）の製造・販売を行い、地域の畜産農家に供給している。また、2年前からは酪農も行っている。

佐々木良治代表取締役社長は、異業種から転職した経験から「これまでの農業の常識のままでは人材確保が難しい」との危機感のもと、休暇制度の充実を進めており、有給休暇20日間（繰り越しあり）のほか、新たにリフレッシュ休暇、誕生日休暇等を導入し、職場全体で完全取得に取り組んでいる。

社内では、繁忙期以外は「休みたい時が休み！」というスタイルの働き方が定着しており、若手従業員の仕事へのモチベーション向上に繋がっているとのこと。なお、部門内で休暇が重なった場合には、他部門からサポートを行っている。

佐々木代表取締役は、「雇用人員については、福利厚生や待遇面を充実することで、業務量と人員がマッチしている状況にあり、労働力の不足感はない。」と語っていた。

若手人材に選ばれるメリハリのある働き方が、現場の労働力確保につながっている。



敷地内から見る岩手山



佐々木良治代表取締役社長



若手従業員の皆さん
写真提供：
（株）岩手山麓ディリーサポート